平成３０年度「高校生等防災教育基礎講座」実施状況

１　実施概要

平成３０年度は、県立高等学校８校、市立高等学校１校、私立高等学校１校、特別支援学校２校の計１２校で実施しました。内容は、防災に関する講演（講師派遣）を基本とし、加えて模擬体験を実施しました。

【実施校】

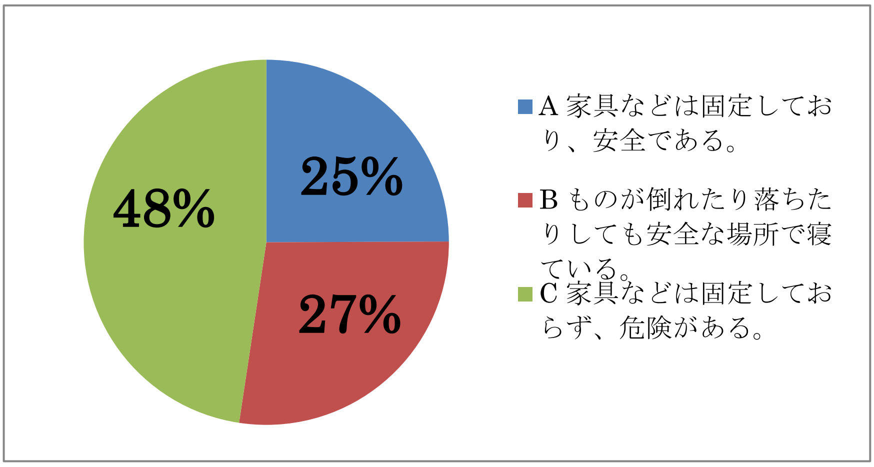
№.	実施日時	実施校・参加者	演　題・講　師
1	7 月 17 日(火) 10:00～11:00	県立銚子商業高等学校 881 名 （全校生徒・近隣住民）	「高校生として、地震等の災害発生時に取るべき行動について」 公益財団法人市民防災研究所　細川 顕司 氏
2	8 月 29 日(水) 9:40～11:50	県立君津高等学校 840 名 （全校生徒）	「高校生ができる防災への取組・心得について」 地震防災アドバイザー　川端 信正 氏 ※起震車体験を実施
3	9 月 3 日(月) 10:00～11:00	県立関宿高等学校 244 名 （全校生徒）	「高校生ができる防災への取組・心得、地震等の災害発生時に取るべき行動について」 災害救助ボランティア推進委員会 天寺 純香氏
4	10 月 4 日(木) 17:30～19:05	県立東金高等学校 定時制課程 40 名 （全校生徒）	「高校生ができる防災への取組・心得について」 防災ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　防災士会災害対策ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ 矢野 良明 氏 ※煙体験ハウスを実施
5	10 月 24 日(水) 9:30～10:30	敬愛大学八日市場高等学校 147 名（３学年生徒）	「津波からの避難方法と心得及び高校生ができる防災への取組について」 気象庁銚子地方気象台気象情報官　長部 透氏
6	10 月 31 日(水) 10:35～12:25	県立東葛飾高等学校 1,200 名 （全校生徒・近隣住民）	「高校生が家庭または学校でできる防災への取組・心得及び地元が被災地となった時の地域や学校でできるボランティア活動について」 千葉科学大学　教授　藤本 一雄氏
7	11 月 8 日(木) 13:00～14:10	市立松戸高等学校 1,113 名 （全校生徒(保護者含)・地域住民）	「高校生ができる防災の取り組みと ボランティア活動上の注意点」 東京災害ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱﾈｯﾄﾜｰｸ事務局長　福田信章氏
8	12 月 17 日(月) 9:30～12:30	県立茂原高等学校 567 名 （全校生徒）	「高校生ができる防災への取組・心得について」 防災ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　防災士会災害対策ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ 矢野 良明 氏 ※煙体験ハウスを実施
9	12 月 18 日(火) 9:00～11:30	県立八千代西高等学校 465 名 （全校生徒(保護者含)・地域住民）	「災害から生命を守り、助け合う」 東京災害ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱﾈｯﾄﾜｰｸ事務局長　福田信章氏
10	12 月 18 日(火) 9:30～11:00	県立館山総合高等学校 460 名 （全校生徒・地域住民）	「高校生ができる防災の取組」 地震防災アドバイザー　川端 信正 氏

11	12 月 19 日(水) 13:10～14:10	県立市川特別支援学校 87 名 （高等部 1～3 学年生徒）	「自然災害と防災及び減災について」 減災・福祉パートナーズ　蓮本 浩介氏
12	12 月 20 日(木) 10:30～12:10	県立千葉特別支援学校 125 名 （全校生徒）	「高校生ができる防災への取組・心得について」 減災・福祉パートナーズ　蓮本 浩介氏 ※起震車体験

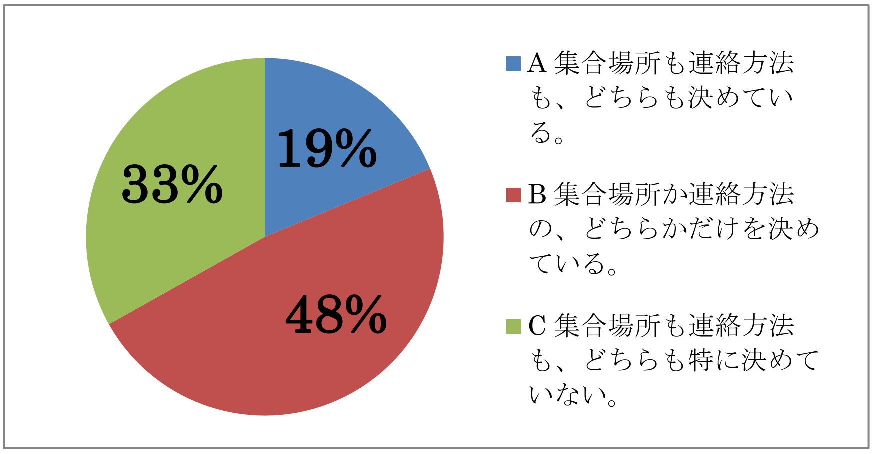
２　アンケート結果

「高校生等防災教育基礎講座」の参加者に対して、日常からの防災対策及び東日本大震災後の災害に対する意識を問うアンケートを実施しました（特別支援学校を除く）。

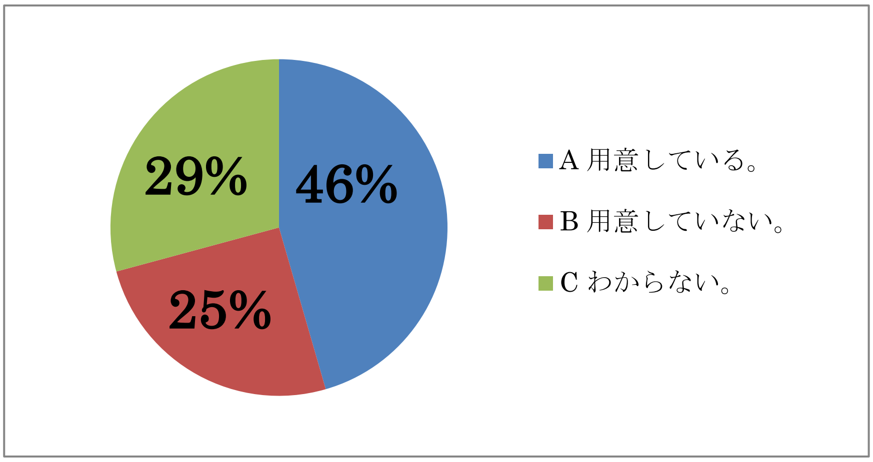
（１）あなたの家庭では、寝ているときに地震が起こった場合、体の上にものが倒れてきたり落ちてきたりする危険はありますか？



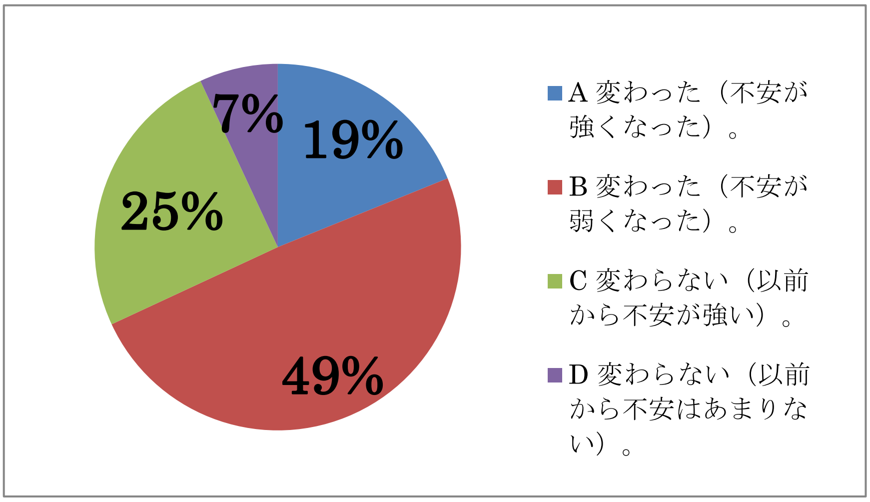
（２）東日本大震災の起きた当日は、各交通機関が止まり、遠くから通学している人は帰宅が困難になりました。また、電話も通話が集中し、つながらなくなりました。
　家族と離れている時に災害が起きた場合、集合場所や連絡方法を決めていますか？



（3）東日本大震災のように、大災害時にあなたの家庭が被災するのと同様に、自治体なども被災し、すぐには公的機関からの救援が望めない場合があります。
　あなたの家庭では、災害に備えて水や食料などの非常品を用意していますか？



（4）あなたは、東日本大震災が起きる前・後をくらべ、大地震や風水害に対する気持ちに変化がありましたか。



（5）本日の講座についての感想や、東日本大震災後にあなたが感じたことを書いてください（主な回答）。

- 災害に備えて準備しようと思った。
- 防災について考えるきっかけとなった。
- もしも災害が起きたら、ボランティアとして地域のために働きたい。
- 「地震」を「災害」にしないという言葉が印象に残った。
- 自分たちの世代でも役に立つことや出来ることがあるということがわかってよかった。
- 改めて避難の確認や連絡を取り合う大切さを知りました。

- 災害の起こる時間、曜日、その場所の状況によって被害の大きさが変わることがわかった。
- 雨が５０ミリ降ったら災害が起きてもおかしくないと知り驚いた。
- 何があっても避難勧告が出たら逃げようと思った。
- 家の人たちは何を言っても自分たちは心配ないと思い込んでいるので、一度今回の話を聞いてもらいたい。
- 電話がつながらなくても、メールやＳＮＳが連絡や情報収集として使えることにびっくりした。
- 一番驚いたのは、阪神淡路大震災の起こる確率が７～８％という低さに対して、３０年以内に千葉で震度６弱以上が起こる確率が１０倍の８０％ということだった。もう起こるものと考え、しっかりと対策をしないと。
- 水や食糧の備蓄が必要だと思った。
- 部屋の家具の配置や設置方法を改めようと思った。
- トイレと食料の重要性を知った。自分の防災意識の低さを実感し、見直そうと思った。
- 災害が起きている時のほとんどが最近でびっくりしました。スマートフォンなどが普及している今だからこそ、それをうまく利用して、災害に巻き込まれないようにすることが大事だなと思いました。
- 全部作り話みたいに思っていたことが実際に起きていて、自分がその立場だったらつらくて死んでしまうなと思った。自然災害なので防ぐことができないということが難点だが日頃から身内を大切にしようと思った。
- みんなが誰かを亡くしていて、傷を負っている状態というのはコミュニケーションも大変だし、体育館での避難生活も含めすべてが大変だと思った。